

平成29年度 おかやま協働のまちづくり賞応募募用紙

平成29年10月31日

岡山市長 様

応募者代表 団体名 生活支援サポート岡輝よりそいの会
氏名 米川 光代

平成29年度「おかやま協働のまちづくり賞」に応募します。

<p>取組の名称</p>	<p>生活支援サポート 岡輝よりそいの会</p>	
<p>取組の概要</p> <p>※インターネット投票を行うサイトにそのまま掲載します。 今年のテーマとの関連がわかるよう、目的（解決を目指している課題）及び取組概要を300字（句読点含む）以内で記載してください。</p>	<p>高齢化が進む地域で、ちょっとした困りごと（買い物の同伴やゴミ出し、庭の草抜き、お話し相手など）を、「お互い様」の気持ちを基に、助け合う活動を進めていく。</p> <p>岡山ふれあい公社主催の「生活支援サポーター養成講座」の受講生が中心となって、年を重ねた者同士でもできることはないか？から始まった活動、平成30年度スタートを目標に、現在は活動に向けて、公民館を拠点として、「七夕サロン」や「クリスマスサロン」などを開催して、地域の高齢者と楽しくつながりを深めている。</p>	
<p>協働団体</p>	<p>岡山市立岡輝公民館 岡山市北区中央地域包括支援センター 岡輝ケアカフェ</p>	
<p>取組の実施期間</p>	<p>始期：平成28年 4月～</p>	<p><input type="checkbox"/> 平成 年 月終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続予定 <input type="checkbox"/> 平成 年 月頃終了予定 <small>※該当するものに☑し時期の予定し必要事項記入してください。</small></p>

〔様式1〕 協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	生活支援サポート 岡輝よりそいの会
平成 29 年度 募集テーマ	楽しんで年を重ねられる社会のために
テーマとの関連	<p>公民館で活躍する方々の平均年齢は 60 代後半から 70 代前半。今なお元気に活動の中心となって活躍している。岡山市の総合事業でも年を重ねても「支えられる側」ではなく「支える側」となって自分らしく、楽しく過ごすことが大切だといわれている。</p> <p>そこで、平成 27 年度に岡輝公民館を会場として開催された岡山市ふれあい公社主催の「生活支援サポーター養成講座」を受講した方々が中心となって、「自分たちでもできること」「お互い支え合って自分たちのまちで暮らしたい」「いくつになっても自分のために、人のために、楽しく活動したい」の思いを持って 27 年度 4 月より活動を開始した。</p> <p>実際の活動は、30 年度活動開始としているが、それまでに地域の方々とのつながりを深めたいとの思いで、年に 2 回「七夕サロン」と「クリスマスサロン」を開催したり、地域の高齢者施設の専門職の方々を作る「岡輝ケアカフェ」の皆さんと連携したり、活動に向けての地域の現状把握・基礎知識の習得のための学習会を開催したり、様々な活動を進めている。</p> <p>構成メンバーは平均年齢が 70 代前半だが、「いくつになっても、自分らしく、私らしく生きたい」と思いながら活動している取り組みということで応募することとした。</p>
目的・解決をはかりたい課題の状況・目標	<p>○取り組みの目的 地域福祉・高齢化が進み、独居の高齢者、高齢者のみの世帯でヘルパーに頼めない些細な困りごと（ゴミ出し、草抜き、買い物、お話し相手）を引き受けいくつになっても住み慣れた地域で暮らし続けることができることを目的とする。</p> <p>○社会課題の現状把握・ニーズ把握、解決後の姿 学区の高齢化率（特に清輝学区）は岡山市の平均高齢化率より高く、市の中心部に位置しているため、若い世代の流出が比較的多く、高齢者のみの世帯が多い。サロン開催時での聞き取り調査では、ゴミ出しや草抜きなど些細な困りごと、話し相手がいないなど孤立する高齢者の現状が見えてきた。</p> <p>活動を進めることで、地域全体で「お互い様」の気持ちを持ち、改めて生活支援サポーターの活動がなくても、隣近所で支え合えるまちになっていくことが理想の姿</p>
取組の内容	<p>1 取組の対象：対象地域、対象者、対象人数等 ・対象地域：岡輝学区 ・対象者：活躍する人・・・岡輝学区とその周辺に住んでいて、生活支援サポートに興味のある方 サービスを受ける人・・・岡輝学区のおおむね 70 歳以上の独居または高齢者夫婦 ・対象人数：岡輝学区の対象者</p> <p>2 取組の担い手：取組への参加団体、参加人数等 ・取組の担い手：岡輝学区とその周辺に住んでいて、生活支援サポートに興味のある方 ・取り組みへの参加団体：岡輝公民館、岡山市北区中央地域包括支援センター、岡輝ケアカフェ ・参加人数：よりそいの会メンバー・・・12 名、公民館職員、 地域包括支援センター職員、岡輝ケアカフェメンバー</p> <p>3 活動内容、実施方法などを具体的な活動ごとに箇条書きでお書きください。 ・定例会・・・月 1 回。主に活動に関する学習会とサロンの企画運営、活動立ち上げのための体制作り ・サロン・・・年 2 回。「七夕サロン」、「クリスマスサロン」 ・地域の関連事業への参加・・・岡輝ケアカフェ主催の事業や佐藤医院主催「佐藤 de ごはん」への参加 岡山市の総合事業関連の学習会への参加など</p> <p>4 取組を WEB 等で告知している場合はその URL をお書きください。 WEB では告知していませんが、「サロン」については岡輝公民館だよりに開催記事を告知しています。</p>

	団体名（代表者）	この取組で果たしている役割	団体自身にとってこの取組をする理由やメリット
協働団体とその役割等	岡輝公民館 (館長：小林 洋)	共に活動を進めている。 相談依頼の窓口としての役割を担う予定	公民館を活動の拠点とすることでメンバーが集まりやすく、地域の方も窓口の所在が分かりやすい。
	岡山市北区中央地域包括支援センター (センター長 石川 葉子)	共に活動をしている 相談依頼があった場合、受け入れることができるかどうかの判断をする予定	専門的な見地から、介護サービスとの関係を判断したり、日頃から福祉関係の専門的な情報を提供してくれる。
	岡輝ケアカフェ (会長砂場 真弓)	定例会へは常時参加 専門的な情報の提供や、地域の高齢者の現状をネットワークの中で提供	専門的な見地からの助言や、訪問介護などからの地域の現状についての情報提供(個人情報に配慮しながら)
取組の工夫 取組の特徴	<p>◎地域資源や人的資源の活用など工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが参加しやすいイメージの公民館を拠点とし、多くの方にアピールすることができた。 ・生活支援サポーター養成講座の受講生への働きかけとして、これまで受講した方々との交流会を計画している。 ・他の同じような活動をしているグループとの懇談会の開催。など <p>◎協働する各団体の役割分担や、団体間の目的の共有の仕方、対等な協働関係を築いていくための工夫など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡輝公民館…定例会での司会進行や情報提供、地域団体とのつなぎ役、学習提供など ・地域包括支援センター…専門的な情報提供、定例会での助言など ・岡輝ケアカフェ…「サロン」開催時での活動の援助、地域の情報提供、定例会での助言など <p>◎取組の特徴やアピールポイント</p> <p>誰でもできることを、無理なく、楽しく、自分のために、人のためにすることで、お互いが心豊かに安心してらせるまちづくりの一步をみんなで行っている。</p>		
成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・岡輝よりその会に参加し、活動をしている方から「当初は、人とかかわりを持つことが苦手だったが、今は多くの人と関わろうと思えるようになった。もっと人のために何かしたい、と思えるようになった。」という声が上がっている。一人一人が小さな思いをもって活動しているがそれがつながることで些細なことでも喜んでくれる人がおり、また喜んでくれたことが励みとなり生きがいを持って活動することができていると感じる。 ・産声を上げ始めたばかりの活動でまだまだ成果は大きくない。 		
今後の活動展開など展望	<ul style="list-style-type: none"> ・成果はまだまだで普及も十分ではない。 ・今後はサロンの開催やこれまでの生活支援サポーター養成講座受講生に向けての〇Ｂ会の開催を予定している。 ・平成 30 年度からの本格的な活動の開始 		